

かすみがうら市で震度6弱 ―東日本大震災―



↑(左)講堂入口の一部が崩落した千代田公民館 (右)天井の一部が崩落した千代田庁舎3階講場

初めて経験する不安の中の生活

一 陸沖で発生した地震の震源は牡鹿半島の東南東約130キロ付近で震源の深さは約24キロ。震源域は岩手県沖から茨城県沖までの約500キロにも及び、宮城県、福島県、茨城県、栃木県の4県28市町村で震度6強を観測したほか、東北地方を中心に、北海道から九州地方にかけて震度6弱から1を観測しました。当初の地震の規模を示すマグニチュードは8.8(その後、9.0に修正)。国内観測史上最大となり、1900年以降に発生



↑旧霞ヶ浦庁舎ストックヤードには、倒壊した塀や根瓦などが集まりました。

した世界の地震でも4番目の規模になりました。この地震で市内では震度6弱を観測。数分間にわたる長く激しい揺れにより、市内各所で家屋や商店、工場、公共施設などで一部損壊、道路や水道管に亀裂が入るなど深い爪痕が残りました。地震発生直後から一般電話、携帯電話とも不通になり、家族の安否や情報収集、情報発信などは困難を極めました。また地震発生から数日間は、停電や断水が続き、ライフラインや交通網が大きく混乱しました。さらに、大地震によるガソリンや灯油などの燃料不足が追い打ちをかけ、地震による恐怖、その後さらに続く強い揺れを伴う多数の余震による不安、地域によっては避難所生活をおくるといった大変不安な生活を余儀なくされました。

復旧への支援活動

市 では、震災直後に宮嶋市長を本部長とする災害対策本部を立ち上げ、被害状況の全容把握とライフラインの復旧に全力を挙げるよう指示が出されました。全庁一丸となり迅速な情報提供や避難所、給水所の開設などに取り組みました。そのような中、皆さまには、給水をはじめとする多種多様にわたる作業にご協力をいただき、早期復旧への足がかりを掴みました。多くのご支援、ご協力いただきました皆さまの方々に、深く感謝申し上げます。

→緊急情報の書きたる部
詳細な災害対策部
報告がたる部



「誰かのために」みんなが動く



↑【高校生が母校で給水活動ボランティア】
下稲吉小学校を卒業した高校生が、給水活動の応援に駆けつけてくれました。【3月15日】



↑陸上自衛隊による給水活動
【3月15日】

↑【北茨城市に援助物資】霞ヶ浦北浦水産加工業共同組合が、県内で地震の被害が大きかった北茨城市に緊急援助物資として、小魚および昆布類など1万パックを届けました。【3月24日】



「共に助け合おう」



→【板橋区からの援助に感謝】
災害援助協定都市の東京都板橋区役所から飲料水(ペットボトル)をいただきました。【3月16日】



↑【アントキの猪木さんが慰問】市内の老人ホームを訪れ、入所者の健康を気遣うアントキの猪木さん。【3月20日】



↑【緊急消防援助隊の派遣】救急隊3人、後方支援部隊3人の計6人が災害応援の緊急消防援助隊として福島県消防学校へ派遣されました。【3月25日】

今、私たちにできること

多くの被災地が復興に立ち向かっています。本市も目に見えるものと見えないもの、復旧したこともあれば、災害の余波から深刻な状況に追いやられていたものもあります。特に市の基幹産業である農業は、人の誤解から生まれた風評被害が甚大です。今、私たちにできることは、風評に惑わされることなく、安全で新鮮な地物野菜をおいしく食べること。元氣なかすみがうら市づくりにご協力をお願いします！

安全でおいしい 地物野菜を食べよう！

(4月7日現在)

茨城で現在出荷されている農畜水産物は、安全が確認されたものです。農家は美味しい農産物を自信を持って出荷していますので、安心してお召上がりください。

▼茨城県ホームページ 福島第一原子力発電所事故に伴う県内農産物への影響について
HP <http://www.pref.ibaraki.jp/important/20110311eq/nousanbutsu/>

▼産業技術総合研究所つくばセンター ホームページ 県南地区の放射線測定結果
HP <http://www.aist.go.jp/taisaku/ja/measurement/index.html>